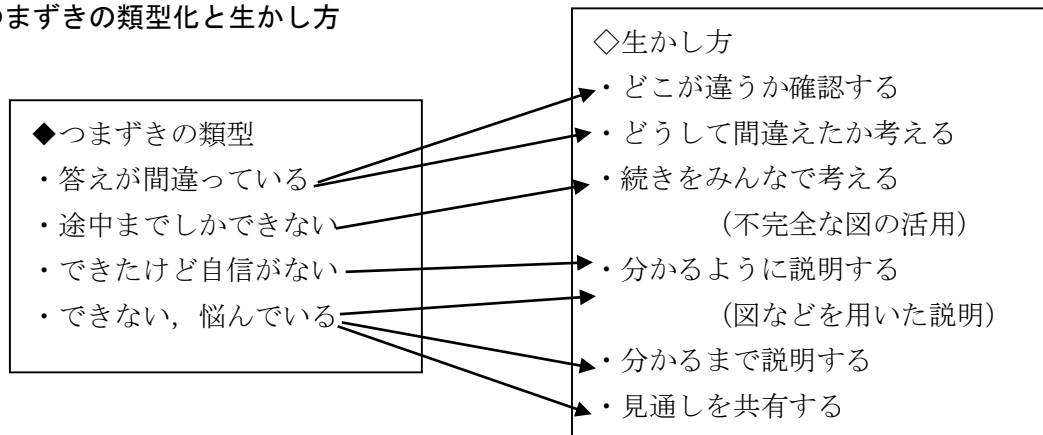


(3) つまづきの生かし方の視点

① つまづきの類型化と生かし方



② 集団解決で取り上げるつまづき, 個別の支援で対応するつまづきの整理

a) 集団解決で取り上げるべきつまづき

- ・ 既習事項を活用しようとしているが, どのように活用したらよいか分からずに困っている。
- ・ 学習のねらいに結び付く誤答や悩み。
- ・ 多くの児童に見られる, 共通した誤答や悩み。

b) 個別の支援で対応するつまづき

- ・ 既習事項の定着が不十分なためのつまづき。
- ・ 共有した見通しと違うことを違うことをしている。
- ・ 自力解決で何もできず動き出せない。

③ 発表順の工夫

つまづきを取り上げるねらいに応じて, つまづきの内容を示すタイミングを工夫した。

取り上げるタイミング	ねらい, 取り上げ方
初め	<ul style="list-style-type: none"> ・ つまづきを出発点として, みんなで考えていく ・ 一人の児童のつまづきや困ったという思いを取り上げる (配慮が必要) ・ 多くの児童がしているつまづきを取り上げる ・ 半分くらいの児童がしているつまづきを取り上げる <p>「みんなの考えを見てみたら, Aという考えの人とBという考えの人がいたよ。どっちが正しいのかなあ？」</p>
中盤	<ul style="list-style-type: none"> ・ 思考に変化を与える ・ 注意すべき点を確認して, 次の説明を行わせる ・ 教師がわざとつまづき, 思考を深めさせる
終わり	<ul style="list-style-type: none"> ・ 名前を出さず, つまづきの例として示す